



池島魂



教育目標 「愛顔でより良い未来に向かって努力する子供の育成」

文責：校長

人権集会 12/6(火)

お互いのちがいを認め合い尊重することで

「支え合う態度」を養い

「考えや思いを相手に正しく伝える方法」を培う

子どもたちの発表を聞いて、改めてこの人権学習の目的を痛感した次第です！
私たち大人も最善改善の実践ですね！学ばせていただき

人権学習：
なかよしは会話から

本校では、11/24の「フラワーアレンジメント教室」を皮切りに、11/28に「話の聞き方を知ろう」、12/2に「考えや思いを伝える方法を知ろう」、12/5に「発表の準備をしよう」と人権学習を進めてきました。お忙しい中、保護者のみな様にもご参加いただきありがとうございました。児童生徒は、この人権学習を通して、「ちがいを認める 支え合う 正しく伝える」を学び、すばらしい発表や演習をしました。これから学んだことを実践し、社会で優しく&たくましく生きていく力にしてほしいです！

いまから小学生の人権学習の発表を始めます。

わたしたちは今年の人権学習で3つのことを学習しました。まず1つ目は話の聞き方です。2つ目に上手に会話をする方法を学びました。そして、最後に上手な会話がどんなことにつながるのか考えました。

まず一つ目は話の聞き方についてです。

相手の話をきくときのポイントをせつめいします。

1つ目はうなずきながら、2つ目は目を見て、

3つ目はラストまで、4つ目はいっしょうけんめいに、

5つ目はスマイルです。かしらもじをとって、「うめライス」で覚えました。

次に上手に会話をするポイントについて知りました。

1つ目は「しりとりの法則」です。相手の言葉を受け止めて、しっかりかえす法則です。例えば、「今日は雨ですね」と話しかけられると、「そうですね。わたしは雨があまり好きではありません」という風に相手の話を受け止めながら話を返していきます。2つ目は「どうして？の法則」です。あいての話に興味をもって質問する法則です。例えば「わたしは雨があまり好きではありません」と言われたら「どうして雨が好きではないんですか？」という風に返します。

後に良い会話をする、どんなことにつながるのかを考えました。まず、上手に聞くことで相手のことをよく知ることができます。また、上手に話すことができると自分のことをよく知ってもらうことができます。このようなことを積み重ねていくとよい関係を作ることができ、みんななかよく過ごすことができると考えました。

今回の学習を通して、じょうずに会話をするのができたら、仲よくすごすことができるなどのいいことが起きると思ったし、自分のことを話すことができてスッキリしました。じょうずな会話のポイントをつかうと、楽しく話すことができました。

これで小学生のじんけん学習のはっぴょうをおわります。



今から**中学生の人権学習の発表**を始めます。

僕たちは、家でも学校でも交流先でも普段生活している中で自分が存在していて、必ず相手も存在しています。一人で生きている人はいません。だからこそ、**お互いに助け合い、良好な関係を築いて生活していくためには、コミュニケーションが大切になる**と思います。

今回の人権学習では、コミュニケーションをとる上で必要な『**聴くこと**』『**伝えること**』について学習しました。

まず『**聴くこと**』についてです。

この聴くという漢字には『**耳+目、心**』という漢字が入って

います。この漢字は、**人の話を聴くときは、耳だけでなく相手の目を見て、心からじっくり話を聴く**ということを表しています。このことを意識して話し合い活動してみると、**うなずきながら、笑顔で静かに話を聴いてくれる雰囲気**がありました。僕が自分の意見を言うときに、安心して話すことができました。**自分が聴く立場にたったとき、耳+目、心で話を聴くと自分も相手も笑顔になることに気づきました。**

次に『**伝えること**』についてです。伝えることには、**言葉、表情、態度、文字、姿勢、身だしなみ、身振りという手段がある**ことを学習しました。

その中でも、『**態度で伝える活動**』と『**言葉で伝える活動**』が印象に残りました。まず、態度で相手に伝えることの活動では、先生が、2つの演技をしてくれました。

一つ目は、丁寧にドアを開け閉めし、柔らかい表情で入室するという演技です。その杉村先生の態度を見た僕は、話しかけやすい印象を受けました。二つ目は、乱暴にドアを開け閉めし、無表情で、足音や物音を立てながら入室するという演技です。とても話しかけにくい印象でした。特に2つ目は、いつもの優しい先生ではなく、怖い印象を受けたので「**自分の態度次第で相手に受ける印象も変わってくる**」ことを実感しました。

次に言葉で伝える活動では、相手の気持ちも考えながら自分の言葉で想いを伝えることをめあてとして3つの場面について、どのように言葉で、自分の想いを伝えるか考え発表しました。その3つの場面とは、相手に注意する場面、相手のお願いを断る場面、相手に対して催促する場面です。

相手の状況や気持ちを考えると、言葉で伝えるときに5つのことが大切になるとわかりました。それは、具体的に伝えること、柔らかい表情で話すこと、声のトーンを少し上げること、相手の目を見て話すこと、わかりやすく丁寧な言葉を使うことです。そうすることで相手を責めるような伝え方にはならず、自分の想いも相手に伝えることができ、相手も素直に答えてくれることを学びました。そして、最後にもう一つ大切なことは『**あえて何も伝えず、相手のことを待つ・見守る**』ということです。相手の状況や立場、気持ちなどを考えたときに、**すべてを伝えることがいいとは限らない、相手を信じて待つことも時には必要である**と今回の学習で学ぶことができました。

自分の行動や発する言葉で、相手の行動や発する言葉も変わってくることを今回の人権学習では学ぶことができました。この学んだことを意識しなくても身につけていけるように、これから努力していきたいです。





「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」

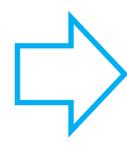
あたりまえ
なんにもしない
なんにも言わない

人と人の間に、お互いを認めたあたたかい言葉や行動をいれましょう

「感謝神経」を磨くことで多様な感性を身につけることができます。ないげないことにも「ありがとう」とプラス感想などをそえてみましょう

「新聞紙タワーづくり」

みんなで、どうしたらより高いタワーができるのかを考え、話しながらつくっていきました！



どうしたら新聞紙タワーが高くなるのか！？

協力して組み立てています！



【ふりかえり】仕事を分担しながら工夫しました！協力して、仲良くできました！



